

ライブ・エンタテインメント市場に生じる回復格差

とりわけ深刻な状況が続く音楽フェス市場

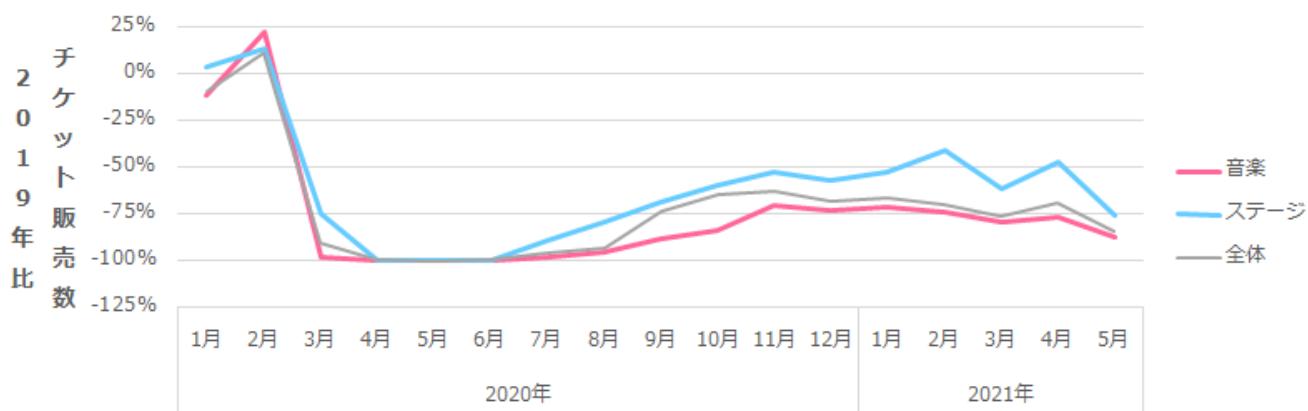
コロナ禍により、2020年に国内ライブ・エンタテインメント市場規模の約8割が消失した。ライブエンタメ活動は、政府のガイドラインに従い感染防止対策を徹底した上で徐々に再開されてきたものの、2021年も低迷が続いている。（図1）

ライブエンタメ全体が低空飛行していることには変わりがないが、政府の定めたイベント開催制限の解除状況により、同じライブエンタメの中でも市場回復にやや隔たりが生じている。特に回復が遅れて

いるのは、以下の条件に該当するものである。

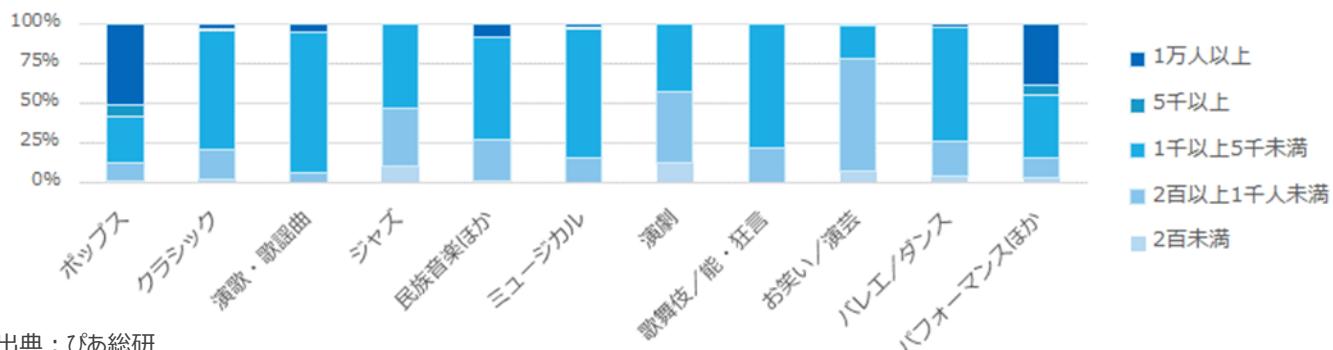
- 大声での声援等の可能性があるとみなされ、収容率上限100%までの緩和が遅れたジャンル（主に音楽ジャンルが該当）
- 収容人数上限制限が長期化している1万人を超える大規模公演
- 海外から入国制限や入国後の行動制限に抵触する来日公演

〔図1〕 ライブエンタメチケット販売数の推移



出典：「V-RESAS、ぴあ(株)『イベントデータ』 <https://v-resas.go.jp/#events>」（2021年7月20日に利用）を加工して作成

〔図2〕 ライブエンタメ動員数の会場規模別構成比率：2019年



出典：ぴあ総研

NEWS LETTER

発行：ライブ・エンタテインメント調査委員会

調査/編集：ぴあ総合研究所

VOL. 02

2021年7月発行

特に、収容人数1万人以上公演の動員数が51%（2019年）を占める音楽ポップスにおいて、人数上限制限がなかなか撤廃されないことが、ポップス市場の回復を遅らせている。〔図2・3〕

フェス（ポップス）が受けた打撃はとりわけ深刻である。2020年の音楽ライブの市場規模は、前年比86.1%減の589億円。うちフェス（ポップス）は同97.9%減の6.9億円と壊滅的状態となつた。〔図4〕2021年も状況は厳しく、感染再拡大により、4・5月に予定されていた宮城の「ARABAKI ROCK FEST.」（宮城県）、「METROCK」（大阪府）などが2年連続で開催を断念。フェスの最盛期である夏シーズンも、「ROCK IN JAPAN FESTIVAL」（茨城県）、「RISING SUN ROCK FESTIVAL」（北海道）などの開催中止が相次ぎ発表されている。

実施予定のフェスも、開催規模の縮小や海外アーティストの招聘見送りなど、異例甚しきの態勢となりそうだ。通常であればライブエンタメ全体の動員数の過半を占めるポップスの回復がこのように遅々としていることが、ライブエンタメ市場全体の回復の遅れにつながっている。

低空飛行が続くライブエンタメ市場の再浮上の力ギを握るのは、やはり収容人数制限の完全撤廃であろう。そのためには、いまのところワクチン接種率の上昇に期待するしかない状況である。

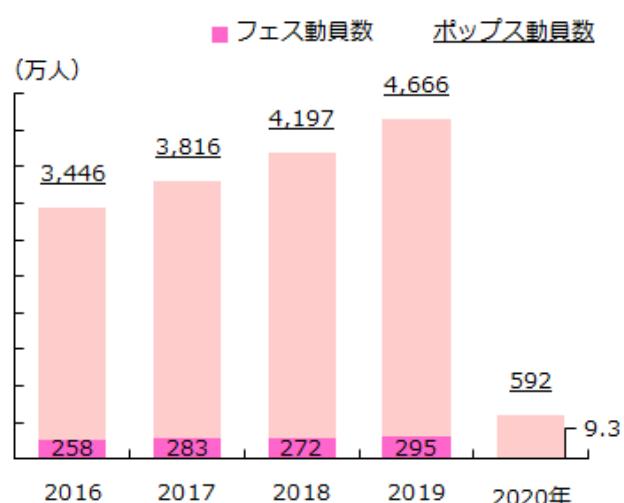
ライブエンタメ業界としては、様々な制限が解除された後のライブエンタメ市場が力強い勢いを取り戻すために、いまは感染防止対策に最善をつくし、安全・安心にライブを開催できるという実績を積み重ね続けることで、この逆境を乗り切りたい。

〔図3〕 ライブエンタメ動員数減少率と平均動員数



出典：ぴあ総研

〔図4〕 フェスの動員数の推移



出典：ぴあ総研